

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2009年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人三鷹陽だまり企画

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

精神障害者のケアホームの設立に向けて

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

現在、精神科病院に入院しているが何らかの支援があれば退院できる「社会的入院」の方は全国で約7万人いるとされている。その受け皿としてのグループホームやケアホームのニーズも高まっている。グループホームでは対応が難しい重度の方の支援が出来るケアホームを行うことにより、なかなか退院できなかった方も地域で生活でき、現在在宅生活している人も生活が難しくなったときにも利用できると考えた。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

古い一軒家を借りて、改築工事を行い開設の手続きを行った。

12月に認可され、試験宿泊を行い、長期入院していた5名の方に1月末に退院してケアホームに入居していただいた。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

募集に際して、精神科単科の病院に入院している方や職員に説明をする機会を多く設けた。その時に、各自が退院したらどんな生活がしたいか、何が不安か等について丁寧に聞くことを心がけた。その結果、退院できないのではないかとあきらめていた人や職員も一歩踏み出すきっかけとなり、今回ケアホームに入居できなかった人もその他の社会資源を探すこととなった。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今回の募集は短い期間であったが、5名の定員に対して16名の応募があった。

長期入院の方は他の選択肢が難しい方が多く(高齢であっても、養護老人ホーム入居は難しいと断られた方もいる)ケアホームの必要性を強く感じた。

実際に開設してみると、夜間支援のための職員配置や防災設備等の条件など困難なことが多かった。

大変なことも多く試行錯誤の連続で落ち着くまでに時間をかなり要すると思うが、入居している方が「退院できてよかった」と感じられるように継続することが今後の目標である。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし